

第1章

なんのための“観光”？

1. 社会背景と地域の課題

P2

2. 観光の意義と目的

P3

3. 国・県の動向と計画

P4

4. 明和町観光振興計画

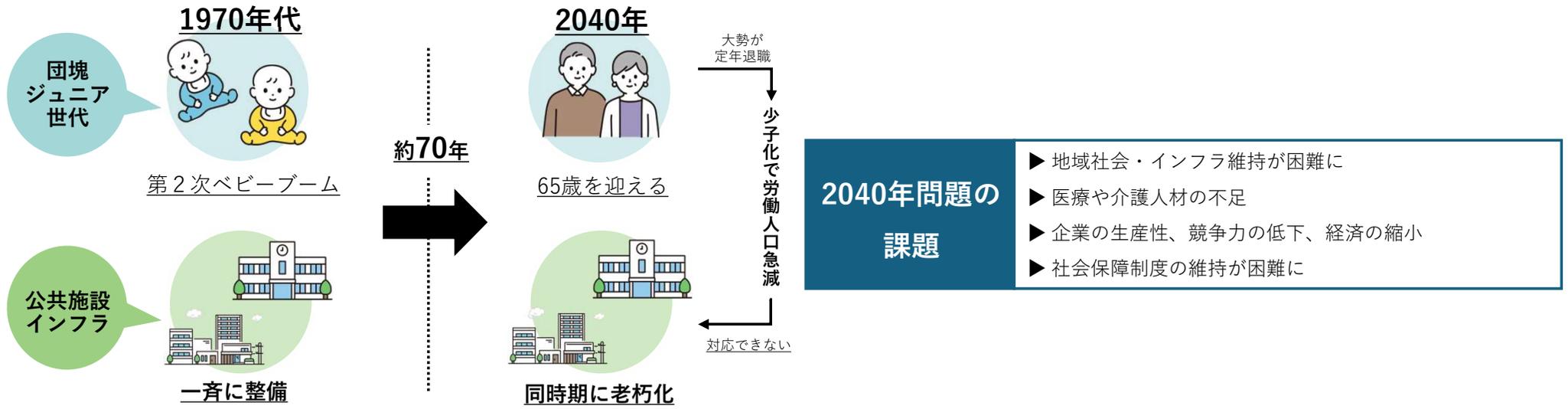
P5

1 社会背景と地域の課題

日本全体で少子高齢化と人口減少が進行しており、2040年には65歳以上の高齢者が人口の約34.8%を占めると予測されています。また、東京圏への人口集中が続く中で、地方では人口流出や人手不足が深刻化し、地域の持続性が大きな課題となっています。多くの地域では社会的変化の影響を受け、空き家の増加、労働力不足、公共交通機関の衰退、地域コミュニティの希薄化、インフラの老朽化などの問題が顕在化しています。その結果、医療・福祉サービスへのアクセスの困難化、地域経済の停滞、伝統文化の継承の危機といった、地域生活全体に関わる課題が広がりつつあります。

人口減少問題(2040年問題)

2040年の日本は、65歳以上の高齢者が全人口の34.8%に達すると予測しています。その一方で15歳から64歳の生産年齢人口が急減し、経済や社会保障等の維持が危機的状況に陥ると予測されています。



2040年問題の課題

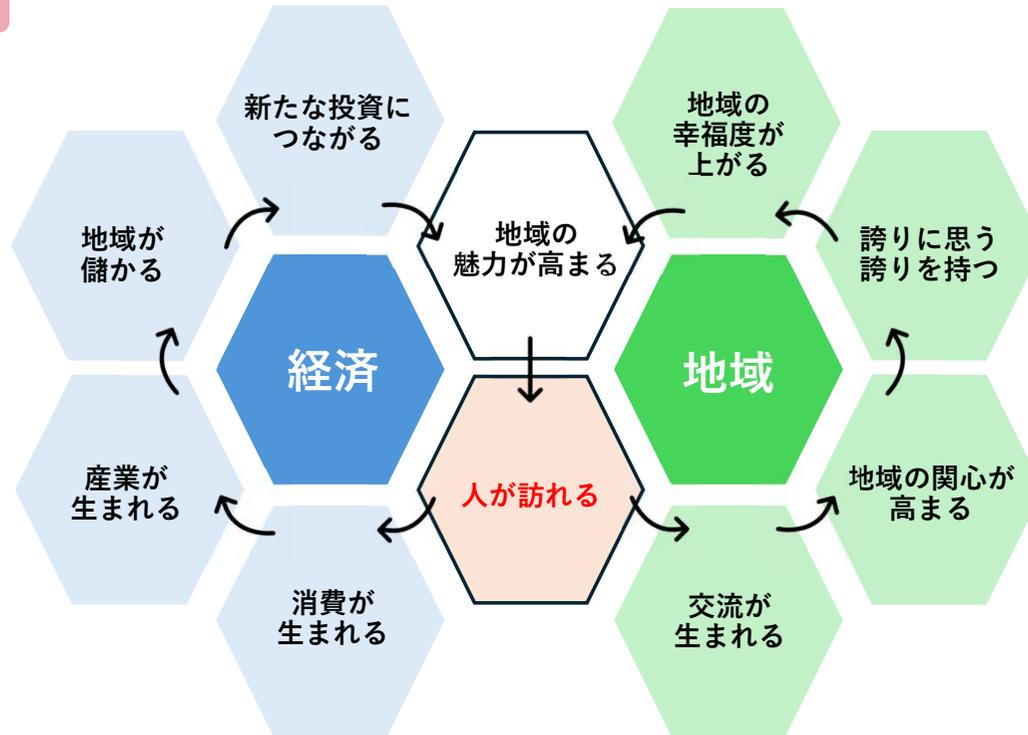
- ▶ 地域社会・インフラ維持が困難に
- ▶ 医療や介護人材の不足
- ▶ 企業の生産性、競争力の低下、経済の縮小
- ▶ 社会保障制度の維持が困難に

2 観光の意義と目的

少子高齢化による人口減少、また人口減少に伴う地域産業の衰退をはじめとした地域の課題を抱える中で、わが国では「観光」を重要な施策の柱として位置づけています。観光のもつ意義として、外からの訪問者による地域での消費や交流は、地域に活気をもたらすだけでなく、地域の魅力を再発見するきっかけや、誇りの醸成にもつながります。また、移住や定住のきっかけともなり人口減少社会において“新たな地域の形”を生み出す可能性を秘めています。地域の課題を横断的に解決するための実践的な手段として、“観光”の取組により関係人口を増やしていくことは、**地域の将来を支える戦略の一つ**になっています。

観光の重要性

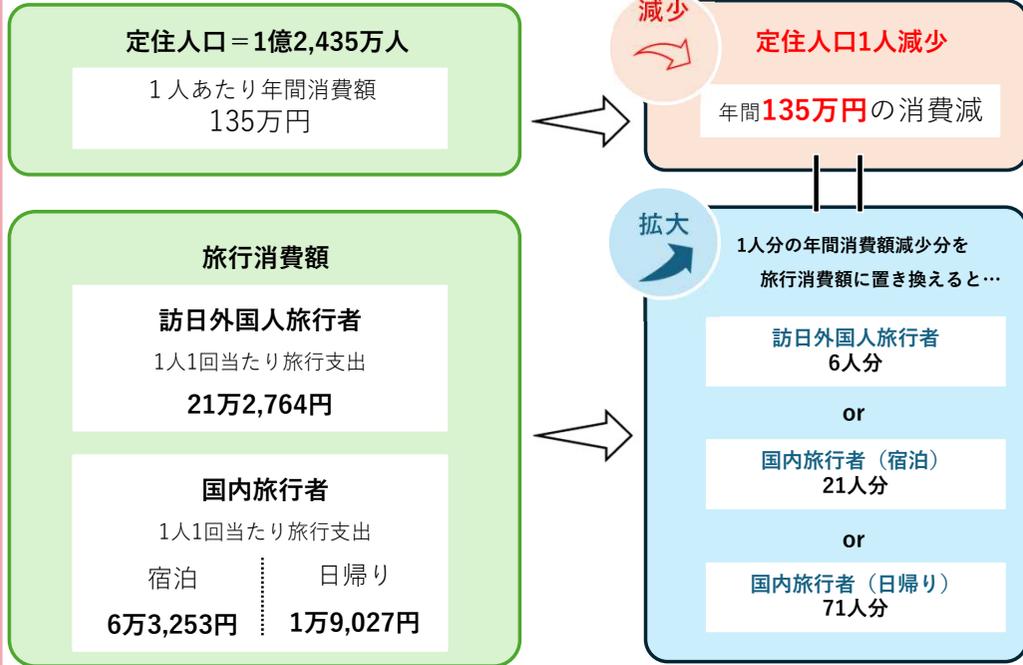
宿泊・飲食・買い物などの消費を通じて地域内の事業者には収益をもたらし、**雇用の創出や新たな産業の育成**にもつながります。また、地域の資源を活かした商品やサービスの開発を促し、地元経済の循環と活性化を生み出す役割を担っています。



地域の魅力や誇りを再発見し、それを次世代へとつないでいく契機となります。観光を通じて住民や事業者、行政が連携し、地域資源を守り育てながら活用することで、地域の絆が深まり、暮らしや文化を大切にするまちづくりが進みます。

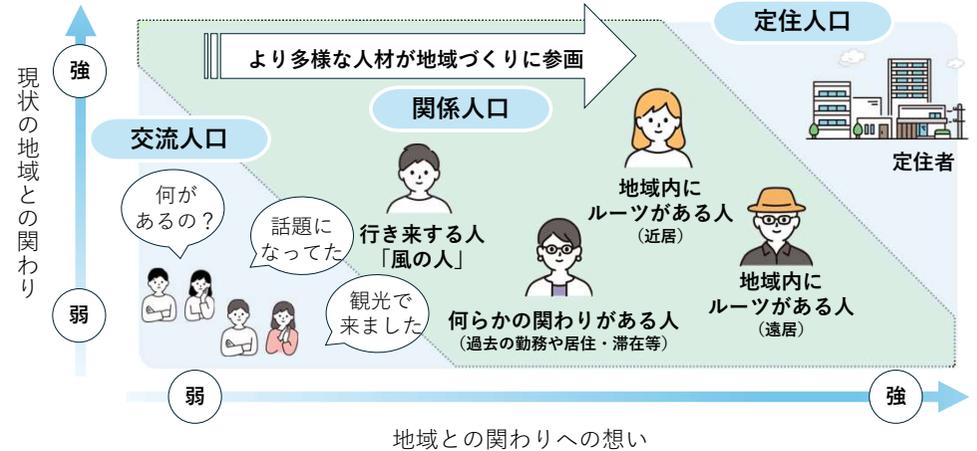
交流人口増大の経済効果

定住人口1人当たりの年間消費額（135万円）は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者6人分、国内旅行者（宿泊）21人分、国内旅行者（日帰り）71人分にあたる
としています。



出典：国土交通省「我が国観光産業の現状と今後の展望」

定住人口・交流人口・関係人口



国際観光旅客税

観光先進国の実現に向け我が国の観光基盤の拡充や強化を図るために、現在「国際観光旅客税（出国税）」が設けられています。国際観光旅客税は、**出国する方に対して**1回あたり1,000円のご負担をいただいています。2024年度ではこの出国税が481億円の税収となっています。



3 国・県の動向と計画

国においては、「観光立国推進基本計画」（観光庁）や「文化観光推進法」（文化庁）などに基づき、観光を地域の成長や活性化を支える重要な柱として位置づけています。特に、地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進、文化財の保存と活用の両立、人材育成やデジタル技術を活用した観光サービスの高度化などが重点的に進められています。

観光庁【観光立国推進基本計画】

持続可能な観光地域づくり戦略

- ◆ 観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進する
- ◆ 観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善にもつなげる（「稼げる産業・稼げる地域」）
- ◆ 地域住民の理解を得ながら、地域の自然、文化の保全と観光を両立させる（「住んでよし、訪れてよし」）

環境に配慮したコンテンツの
造成・工夫、受入環境整備

地域の持続可能性を
高める観光コンテンツ

観光地・観光産業の再生・
高付加価値化、観光DX

DMO等担い手の育成

持続可能な観光戦略
効果検証

観光振興が生む
地域社会・経済の
好循環

地域一体となった取組
観光産業の収益力・生産性向上
地域全体の活性化

住民の観光への理解
地域への誇り・愛着

観光従事者の待遇改善
担い手確保

「日本版持続可能な観光
ガイドライン」の活用

持続可能な観光地域づくり戦略

- ◆ 消費額5兆円の早期達成
- ◆ 消費額拡大・地方誘客促進を重視
- ◆ アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

国内交流拡大戦略

- ◆ 国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す
- ◆ 旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる新たな交流需要の開拓を図る

出典：観光庁「観光立国推進基本計画（第4次）概要」

文化庁（文化観光推進法）

文化観光推進法で目指す 文化・観光・経済の好循環

文化資源の保存・活用

- ◆ 保存、修復、防災
- ◆ 体系的収集・調査結果による価値の顕在化・発信
- ◆ 専門人材の確保・育成

文化

文化の振興を起点として、
観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる
経済効果が文化の振興へ
と再投資される好循環を
創出

経済

地域経済の活性化

- ◆ 人の往来、消費活動の拡大
- ◆ 地域ブランドの向上
- ◆ 企業等からの寄付

観光

魅力向上・来訪者の増加

- ◆ コレクションの充実・魅力向上
- ◆ 分かりやすい展示、多言語化、国内外への積極的発信
- ◆ 地域における文化観光推進事業者との連携
- ◆ 地域ぐるみの交通アクセス等利便性向上

出典：文化庁「文化観光」

三重県においても、「三重県観光振興基本計画（令和6年度～令和10年度）」のもと「旅行者よし、事業者よし、地域住民よしの持続可能な観光地」を目指す姿とし、地域の稼ぐ力の向上、交流人口の拡大、観光産業のデジタル化、人材育成などに取り組んでいます。県内各地の文化・自然・食を活かした観光ブランドの形成が進められています。

三重県観光振興基本計画

10年後のめざす姿と目標 **旅行者よし、事業者よし、地域住民よしの持続可能な観光地**

国内外の旅行者がおすすめしたい観光地になることで、**観光産業が地域経済に貢献し、三重県全体の発展に寄与**するとともに、住民が地域に対して愛着や誇りを持っている。

主目標 観光消費額 R8年度目標 6,000億円～7,000億円  R4年度 4,269億円	旅行者よし 副目標1 観光紹介意向率 R4年度 27.9% → R8年度 45%
	事業者よし 副目標2 観光従事者満足度 R4年度 52.6% → R8年度 60%
	地域住民よし 副目標3 観光がプラスの効果をもたらすと捉えている地域住民の割合 R4年度 68.1% → R8年度 75%

- 1. 質が高く、持続可能な観光地づくり**
 長期滞在に適したコンテンツやサービスの磨き上げを行うとともに、旅行者を迎え入れる環境整備を進める
- 2. 戦略的な観光誘客の推進**
 三重の強みを生かした戦略的な観光プロモーションを展開し、国内外からのさらなる誘客につなげる
- 3. 魅力的な観光産業の確立**
 観光人材のキャリア形成支援、給与アップ、人手不足解消など働きがいのある職場環境づくりに向けた取組を進める

観光DX

各施策に観光DXの視点を取り込む

出典：三重県「三重県観光振興基本計画」

4 明和町観光振興計画について

明和町観光振興計画は、明和町の総合的かつ計画的な町政の運営指針である「第6次明和町総合計画」に紐づくものであり、少子高齢化、人口減少などの地域課題解消や地域の活性化を図っていく一つの手段として観光施策を行っていくための方針、方向性を**行政、関係団体や事業者そして地域**とともに策定し定めています。

